

「東南アジア青年の船」参加の青年たちとの交流会を実施しました！

10月28日（月）、「東南アジア青年の船」事業に参加している30名の青年の方々が本校を訪問し、本校生徒33名（高1：10名、高2：23名）と交流しました。この事業は、東南アジア諸国連合10ヶ国と日本の青年が、相互の友好と理解の促進、国際的視野の拡大、国際協調精神の醸成及び国際協力における実践力の向上を目的としており、今回で第46回目を数えるものです。今回参加している国はブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国の10ヶ国で、本校への訪問は2年前に続くものです。

■歓迎行事



交流会は、野田校長先生の英語での歓迎あいさつで幕を開け、青年のみなさんが国ごとにユニークな自己紹介で場を和ませてくれました。その後、高校2年生の岩崎玲香さんが、英語で歓迎のスピーチを行った後、田邊蒼来さん、田口佳南さん（共に2年生）が英語で学校を紹介するプレゼンテーションを行いました。「春には立山の桜が満開になる」ことが紹介され、その様子がスライドに映し出されると、青年のみなさんからは歓声が上がりました。



■グループディスカッション

歓迎行事に続いて、グループディスカッションを行いました。本校生徒と青年の方々が10のグループに分かれ、探究やSGHで取り組んでいる課題研究のテーマを、国連が掲げる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」と関連づけ、短い時間でしたが深い話し合いができました。事前に話し合うテーマを知らされていたので、多くの生徒が準備をして臨み、「きちんと説明できた」「聞きたかったことを聞くことができました」と達成感を感じることができました。この話し合いの結果は、最後に各グループから全体にプレゼンテーションすることになっていましたが、全グループの発表を本校生徒が任せられ、代表に選ばれた10人は一生懸命に話し合った内容を英語で伝えていました。その姿に青年のみなさんからは、温かな拍手とエールが送られました。



■平和を祈る折り鶴プロジェクト



今回訪れた青年の方々は、折り鶴作りを通して平和について考える態度を養うことを目的としたプロジェクトにも取り組んでいました。青年の方々は来日前に、日本の被爆について学習しており、世界で唯一の被爆国を訪問するにあたり、各訪問地で折り鶴を作成しているそうです。本校でも、ディスカッションの後、それぞれのグループで折り鶴を作りました。本校生徒たちは、鶴の折り方を英語で説明するには苦戦しているようでしたが、会場のあちらこちらから笑い声が聞こえ、和やかな雰囲気の中で、多くの折り鶴が作られました。歓迎スピーチで岩崎さんが語った「長崎を最後の被爆地に」の願いを載せて、できあがった折り鶴は平和公園に献納されるそうです。

■閉会行事

あっという間に時間は過ぎ、閉会の時間となりました。最後は、2年生の山中千紘さんと青年の代表の方がそれぞれにお礼のあいさつを英語で行いました。その後、ピロティで記念写真を撮り、青年のみなさんが乗ったバスを見送りました。初めは緊張していた生徒たちも、会が終わる頃には全員が弾けんばかりの笑顔になっていました。生徒たちからは、「最初はすごく不安だったけど、会話を英語でするのが楽しいと思えるようになりました」「今までよりも英語を聞き取り、積極的に話すことができて成長を感じた」「外国の人たちとも物怖じせず会話しようと思える自信がついた」「青年の方たちとの交流を通して、自分の積極性を少しずつ磨けているように思う」といった感想が聞かれました。短い時間の交流でしたが、大きな学びを得ることができたようです。

